

教育学部紀要『教育科学論集』第10号を発刊するにあたって

教育学部長 福田亘博

教育学部紀要「教育科学論集」は、教育学部設置時の2014（平成26）年度に初めて発刊され、その後今日に至るまで、毎年教育学部教員の研究成果を紀要として発行してまいりました。当初は教員の研究体制も整わなかったことから、毎年の発刊に懸念がありましたが、理系から文系までの幅広い教員陣（研究内容）と関係教員の活発な研究活動とが相まって、本紀要は現在に至るまで欠号が出すことなく発刊してきました。教育学部長として、この場を借りて、初代編集委員長である（故）菅教授と、その後を継いだ2代目相戸教授と3代目渡邊教授に、そして投稿いただいた教育学部教員の皆様には心から感謝申し上げます。

さて、創刊号では、巻頭言として、学部の設置に対して教員の研究業績が①教員の職階及び②教職課程の講義等を担当できるかの審査・認定基準となっていることから、教員の職階については査読付き専門分野の雑誌等に投稿することを推奨し、一方教職課程における教員審査基準ではシラバスに記載された授業内容が担当できる研究を行ってきたかを審査されることから、学部紀要への投稿も一つの投稿先として考慮して頂くようお願いしました。その結果、これまでに教育学部教員は、着実に研究を進め、国内外の専門分野の雑誌及び学部紀要へ投稿して頂きました。特に、卒業論文の結果を学部紀要への投稿はいうに及ばず、国内外の専門分野の学会に投稿・掲載されました。このことは教育学部の教員の質が如何に高いかを如実に示していることを意味しており、強調しておきたいと思えます。

ところで、教育学部は、言うまでもなく、教員養成を使命とする学部です。今年度喜ばしいことに、4年生の小学校課程を履修した24名全員が公立学校（小学校）教員採用試験に現役で合格（100%の合格率）しました。合格者は宮崎県だけでなく熊本県、大分県、千葉県の複数の県に及びました。この結果は、学生の頑張りや学内外講師による充実した教員採用試験対策講座によるところが大ですが、教育学部教員の「研究と教育」力の相乗的な効果があったためと考えています。

最後に、教育学部では、今後とも学部紀要等で報告される研究成果等を活用して、教育の質の向上と教育学の発展、さらには地域の教育界に貢献していきたいと考えています。引き続き、皆様のご協力・ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。